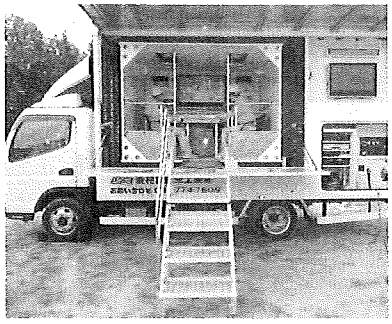
宮坂建設工業　住民ら地震体験、炊き出しも

地域参加型の防災訓練実施

宮坂建設工業㈱（帯広、宮坂寿文社長）は三日、同社の全役職員を動員して第十八回防災訓練を実施した。午前九時に道内各地で震度5強の地震が発生したと想定し、帯広、江別、北見の三ヵ所で実施。帯広では各発注官庁や協力会社、地元小学生、町内会などの一千二百人が参加し、地震体験車試乗、炊き出し訓練などを行ったほか、江別では河川堤防亀裂を想定したシート張り訓練など、北見ではトンネル災害を想定した救命訓練等を展開し、被災を念頭にした真剣な取組が各地で続いた。



同社は、大規模災害から地域住民の安全を守るため「災害対応マニュアル」を作成。発注官庁との連携のもと、地域住民の安全確保のため、職員、資材、機材を二十四時間体制で待機させている。五年から同社単独の防災訓練を行ってきたが、十五年に発生した十勝沖地震を契機に、協力会社や発注官庁、地元商店街などにも呼びかけ対外的に実施する地域住民参加型防災訓練に切り替えた。

この日は、午前九時に道内各地で震度5強の地震が発生したと想定した。本社内に宮坂社長を本部長とする災害対策本部を設置。同社が設置するテレビ会議システムを活用し、札幌支店と連絡を取り合った。

午前十一時からは近隣の帯広中央公園に本部を移動。防災関連の機器、免震・耐震コーナーの展示、スカイキャッチャー（災害時空中撮影システム）の実演、地震体験車の試乗や無線式油圧ショベルの模擬運転などを実施した。

会場には、帯広市立北栄小学校や帯広工業高校、地元商店街や各発注官庁などから一千二百人が参加。炊き出し訓練では、カレーライスを八百人分用意。訓練に参加した市民や児童生徒、関係者に無料で振る舞った。

公園の中心部では北栄小学校の児童や一般市民が見守る中、帯広消防署職員が応急措置を実演した。また、地震体験車の試乗では、体験者が悲鳴を上げながら地震を体験し、地震の恐ろしさを体感していた＝写真＝。

同社の高道伸常務は「大規模災害から地域住民の皆さんを守るのは我々の使命。訓練結果を踏まえ、災害時にはより迅速に対応できる体制を充実させていきたい」と話していた。

緊迫の救出…救命処置

非常時の備えを体験

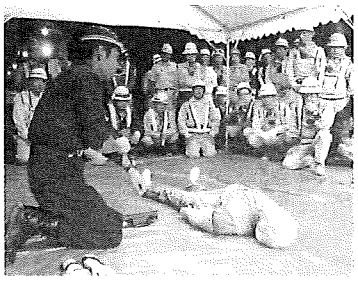
北見

北見では、網走開建が所管する三九号北見道路整備事業関連工事を請け負う宮坂・松谷特定JVとして、第一北見ヶ丘トンネル起点坑口とその周辺で実施した。北見警察署第二機動隊が全面的に協力。災害現場の確保、通報、人命救助への流れを確認しながら、万が一の非常事態に備える心構えを学んだ。

訓練に先立ち、宮坂建設工業の木幡彰夫安全・品質保証部長があいさつ。「地域住民の安全安心を確保するため、万が一のあらゆる事態でも迅速に対応できる体制を整えることが大切。〝世のため人のために尽くせ〟との創業精神を胸に、緊張感をもって臨んで」と訴えた。

午前九時震度5強の地震が発生。北見市近郊の道路法面が崩壊し、通行中の車両一台が生き埋めになるという想定。地震直後、JV職員と作業員が現場をパトロールするが異常なし。事務所への帰路で土砂に埋まった車両を発見する。救助を試みるものの二次災害の恐れがあるため通行止めの措置を施し、警察に通報する。

第一北見ヶ丘トンネル工事事務所の中田利紀所長の合図で訓練がスタート。トンネル坑内にはダミー人形を乗せたまま土砂に埋まった車両が一台。職員らが救助を試みるものの二次災害の恐れを察知し、現場を通行止めとしながら警察に通報した。駆けつけた機動隊員はあらゆる装備を駆使して車外に救出した。



救助した者の意識がないため心肺蘇生法を実施する。隊員の指導で心臓マッサージや人工呼吸、AEDの使用方法やそのポイントを学んだ＝写真＝。担当官は「人の命を助けたい一心で自らのことがおろそかになりがち。現場の安全確保、感染症の予防などにも気を付けて」と呼びかけていた。

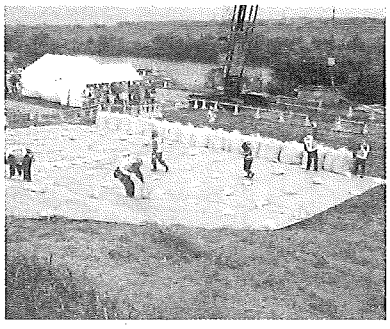
午後からは第一・第二北見ヶ丘トンネル従事者の消火訓練、避難訓練を実施。終日小雨が降り続ける悪天候だったが、現場には緊迫感が漂い、参加者は真剣な面持ちで訓練に臨んでいた。

作業班、出動せよ！

札幌支店

雨中の行動、本番さながら

札幌支店（福田信行支店長）の防災訓練は、温帯低気圧の通過に伴い時折激しい雨が降りしきる中で行われた＝写真＝。



訓練会場は、江別市内の千歳川東野幌築堤中央幹線樋門改築工事現場。帯広本社と同様、札幌市近郊で震度5強の地震が発生したとの想定で実施した。

河川管理者の札幌開建千歳川河川事務所から、現地付近で「施設の損傷によって油脂が流出し、堤内側高水敷に亀裂が生じた」との連絡が入ったと仮定し、現地対策本部長の福田支店長が「職員を現地に派遣し、重機・作業班の出動体制を確認せよ」と指示を発して訓練をスタートした。

油流出に伴うオイルフェンス設置訓練では、クレーンで持ち上げた資材をボート班などの的確な誘導で素早く河岸に設置。また、堤防亀裂を想定したシート張り訓練では、堤防に張った一面のブルーシートを土のうで固定し養生のスタンバイを整えた。

雨で足元がぬかるむ中、参加者は迅速な指示と行動で本番さながらの訓練を終えた。

この日は低気圧通過に備えた緊急待機のため江別消防署が訓練参加できず、応急処置、AED実技などの訓練はできなかったが、札幌千歳川河川事務所、札幌南農業事務所の職員九人をはじめ、協力会社などから約六十人が訪れ訓練を見守った。